

このページは、小・中学生向け
 梅光学院大学子ども学部子ども
 未来学科(地域共生ゼミ)の学生が
 作っています。

※イラスト 渡邊志帆さん、原田陽さん

しものせき キッズページ

「地震災害～自分の体を 自分で守るために～」



▲阪神淡路大震災(1995年1月)での救助の様子。しっかりと安全確保をしながら、救助活動を行いました。

災害の怖さ



皆さんは、地震が起きたとき、どうすればよいか考えたことはありますか。今回は、皆さんに地震災害が起きたときにどうすべきか考えてもらうため、地震災害の怖さと備えについてお話しします。

日本は地震大国と呼ばれており、地震の原因の一つとなる「活断層」が日本中に存在しています。活断層とは、断層のうち、近年の地質時代(数十万年間に繰り返す)の形跡があり、今後もずれる可能性のあるものです。下関だと、菊川に活断層があります。そのため、

いつかは分かりませんが、私たちが住む下関にも大きな地震が襲ってくる可能性があります。地震もですが、地震によって引き起こされる二次災害も怖いのです。津波や液状化、火災などが二次災害です。私たちの住む場所が無くなってしまうだけでなく、最悪の場合、命を落とす危険性があるからです。

阪神淡路大震災から20年

20年前の1995年1月17日早朝、淡路島沖を震源とした震度7の大きな地震が、兵庫県を中心とする関西の府県で起こりました。



約6000人もの方が亡くなった悲惨な地震でした。地震が起きたのが朝の6時前と、多くの人が寝ている時間帯でした。そのため、倒壊する建物から逃げ遅れてしまった人が多かったのです。

このとき、一人でも多くの人命を救おうと、全国から消防・防炎ヘリコプターなどが救助の応援に駆け付けました。全国の消防が応援出動するのは、初めてのことでした。下関市消防局からも、救助の応援に行かれたそうです。当時、神戸市に駆け付けた下関市消防局の北村総務課長は、災害現場

を目の当たりにして「当たり前のように送っていた生活が地震によって一瞬で消える恐ろしさを感じました。自分の体を自分で守ることがとても重要です。そのために何をすべきか、どんな備えをしたら良いか、一人ひとりにしっかりと考えてほしいです」と話してくれました。

この阪神淡路大震災から20年が経った今、この悲惨な地震を忘れないようにすることが大切です。

もし下関で災害があったら



もし学校や家などで地震があったら、あなたはどうしますか？

★**学校の場合** 学校の訓練などでは机の下に隠れますよね。地震直後は机の下に隠れることで、頭や体を守ることが出来ます。揺れがおさまってから、素早く運動場など何もない場所に逃げましょう。

★**家の場合** 地震・その他の災害が起きたとき、どこに逃げたら良いか、家の人と話し合っておきましょう。集合場所などを家族で決めておけば安心です。寝ているときに地震が起きた場合、寝室から裸足で飛び出すのは危険ですので、寝室に避難用の靴やスリッパを準備しておきましょう。



3月号の編集記者
 村田宏仁さん(前列右から2番目)、
 伊藤靖代さん(前列右)



▲下関市消防局の北村総務課長より、阪神淡路大震災の救助活動の話をお聞きました。



▲消防防災学習館「火消鯨」では消火体験などいろいろな災害を体験することができます。